

2. 火山の概況 (平成 15 年 6 月 5 日 ~ 平成 15 年 6 月 11 日)

浅間山では微動があった。三宅島では噴煙活動が継続した。阿蘇山では中岳第一火口の浅部の熱的な活動が高まる傾向がみられた。薩摩硫黄島、諏訪之瀬島では噴火があった。

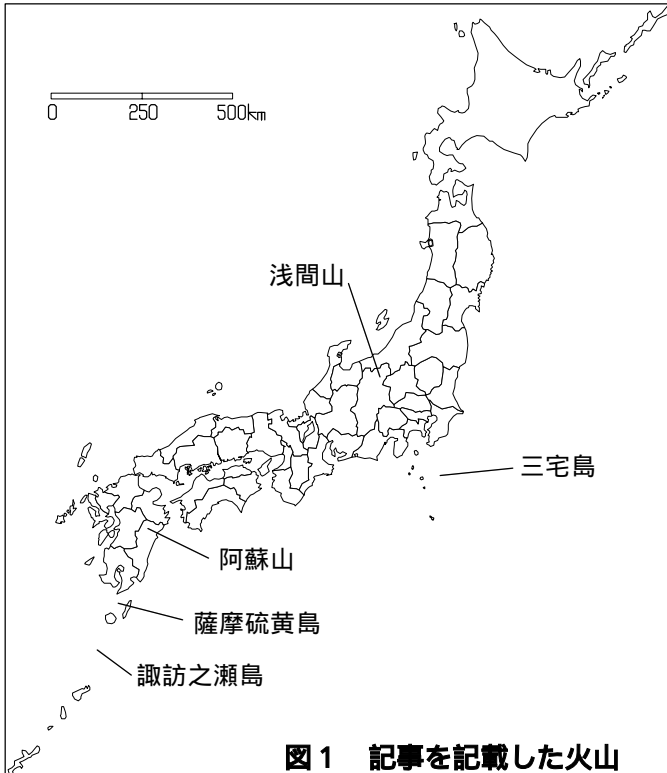


表 1 最近 1 か月に記事を記載した火山

号	対象期間	十勝岳	浅間山	御嶽山	三宅島	阿蘇山	桜島	薩摩硫黄島	諏訪之瀬島
24	6/ 5- 6/11								
23	5/29- 6/ 4								
22	5/22- 5/28								
21	5/15- 5/21								
20	5/ 8- 5/14								

注 1 記号の意味

- ：噴火した火山
- ：観測データ等に変化があった火山
- ：前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

注 2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

浅間山 [熱・微動]

期間中、振幅の小さい微動が 7 回発生した。このうち 6 回の微動は、2 月 6 日以降のごく小規模な噴火に伴い発生した微動に類似していたが、火山灰を含む噴煙の噴出は確認されなかった。また、いずれの微動の発生前後でも、噴煙の状況、地殻変動等その他の観測データに変化はなかった。

白色噴煙の放出は継続しており、最高は火口縁上 200m (5 日、9 日) であった。

地震回数は、1 日当たり 5 ~ 38 回で、これまでと比べ特段の変化はみられなかった。

群馬県林務部設置の高感度カメラ及び赤外カメラによる火口内の観測では、火口底が明るくなる現象が引き続き観測された。

GPS による地殻変動観測では、特に異常な変化は観測されなかった。

三宅島 [噴煙・地震(期間外)]

監視カメラによる観測では、白色噴煙は連続的に噴出しており、高さの最高は火口縁上 900m であった(前期間 1,000m)。

規模の大きな低周波地震は発生しておらず、地震活動は平穏な状態であった。

GPS による地殻変動観測では、三宅島の収縮を示していた地殻変動は収まっている。

なお、12 日(期間外)に振幅のやや大きな低周波地震が発生した。噴煙の状況は雲のため確認できなかったが、その他の観測データに変化は見られず、その後、地震活動は平穏な状態であった。

阿蘇山 [熱]

中岳第一火口の浅部の熱的な活動が高まる傾向がみられる。

6 日に実施した中岳第一火口の観測では、前回(3 日)の観測で湯量が 9 割になったことを確認した火口内の湯だまり¹⁾の減少傾向が依然として継続していた。湯だまりの温度も高い状態で、赤外放射温度計による観測では 72 であった(前回(3 日)74)。また、前回観測時に引き続き湯だまり

の中央部付近に噴湯現象²⁾が確認された。赤熱³⁾が続いている南側火口壁の最高温度も、522（前回（3日）525）と高い状態で推移している（以上図2）。

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上400mで大きな変化はなかった（前期間300m）。孤立型微動及び地震の発生回数は少ない状態が続いた。

- 1) 湯だまり：活動静穏期の中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約50~60の緑色のお湯が溜まっている（湯だまり）。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を吹き上げる土砂噴湯現象等が起こり始めることが知られている。
- 2) 噴湯現象：湯だまり内で火山ガス等の噴出が強まり、湯面が盛り上がる現象。
- 3) 赤熱：物質が高温になり赤く輝いて見える現象。一般に500を超えるとみられる。

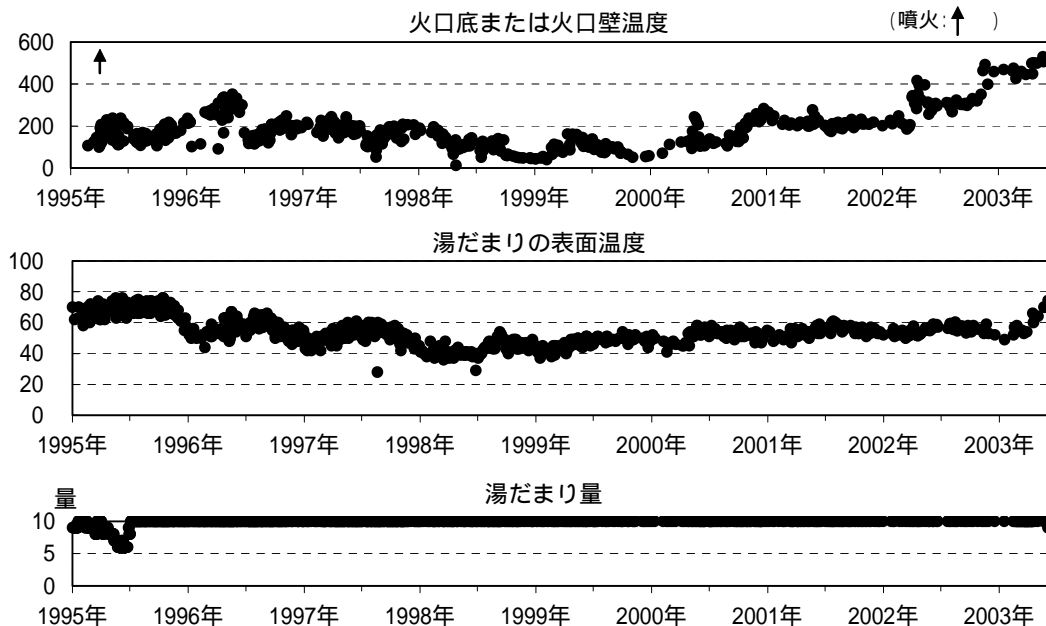


図2 阿蘇山 中岳第一火口の浅部の熱活動推移（1995年1月～2003年6月）

（上図）火口底または火口壁温度、（中図）湯だまりの表面温度、（下図）湯だまり量

1995年3月に噴火した後、同年7月以降、中岳第一火口内は湯だまり量10割（全面湯だまり）が継続し、湯だまりの表面温度は50~60で推移してきた。しかし、2000年頃より火口壁温度の上昇が続き、今年の4月以降は湯だまりの表面温度も上昇傾向がみられ、浅部の熱的な活動が高まっている。

薩摩硫黄島【微動・噴煙・降灰・鳴動】

6日23時42分から連続微動が発生しており（12日24時現在継続中）、火山活動はやや活発な状態となっている。

鹿児島中央警察署硫黄島駐在所によると、7日08時頃から少量の火山灰を含む灰色または灰白色の噴煙が上がり、噴煙の高さの最高は1000mであった。また、島内の集落（硫黄岳の西約3km）で強い臭気と微量の降灰が確認され、島内の北部にある坂本温泉（硫黄岳の北西約2km）では鳴動が聞こえた。

また、三島村役場硫黄島出張所によると、10日と11日に島内の集落で降灰があった。

諏訪之瀬島【爆発・空振・微動・鳴動・降灰】

10日07時頃から連続的な空振を伴った微動が発生し、08時04分には爆発¹⁾が発生した（前期間は爆発なし）。期間中、継続時間の長い微動がたびたび発生しており、火山活動は活発な状態となっている。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、島内の集落（御岳の南南西約4km）では10日07時過ぎから午後にかけて鳴動が聞こえた。また、5日と10日に集落で少量の降灰があった。

- 1) 爆発：噴火の一形式で爆発的噴火の略。地下の高温、高圧源での内圧が増大して起こり、音響とともにガス、水蒸気、岩石等を放出し、空振を伴う現象。時に火口や山体を破壊することもある。気象庁では、噴火に伴い発生した地震及び空振の大きさなどをもとに、爆発的噴火であったかどうかを判断している。

表 2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第 308 号 (1日2回発表)	5日 09:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)
	火山観測情報第 321 号	11日 16:30	
薩摩硫黄島	火山観測情報第 3 号	7日 11:35	火山活動がやや活発(連続微動、少量の火山灰の噴出・降灰)
諏訪之瀬島	火山観測情報第 3 号	10日 09:20	火山活動が活発(連続的な空振・微動及び爆発の発生)